

# JIMGAnews

第10号

## 平成24年度第一回理事会・評議員会合同会議及び定時総会開催について

### 平成24年度第一回理事会・評議員会合同会議について

5月23日、東京會館にて平成24年度第一回産業ガス部門理事会・評議員会合同会議を開催しました。豊田会長の「電力問題の進捗状況や主要課題」などに関する挨拶後、議案審議では決議事項として「1.平成23年度事業及び収支決算報告、2.平成24年度事業計画及び収支予算、3.産業ガス部門理事及び評議員候補者選任、4.規程の一部改訂、5.入会希望事業者審査、6.定時総会招集」について事務局各担当者がプロジェクター等を使って説明を行い、すべて承認されました。報告事項としては、豊澤専務理事から「1.会費検討WG新設、2.電力対策タスクフォース新設、3.東京電力(株)の値上げへの対応」などに関して報告がありました。

### 定時総会開催について

6月13日、東京會館にて部門総会・定時総会を開催しました。当日は総会に先立ち、会長記者会見、シンポジウム、総会前理事会が行われ、定時総会後には総会后理事会、懇親会が続き、すべてのスケジュールが滞りなく進行了しました。



定時総会の模様

会長記者会見では報道機関15社が出席し、豊田会長より「東京電力の電気料金値上げ問題、電力需給ひっ迫に伴う対応や主要課題への対応について」などを発表しました。

シンポジウムでは約200名の受講者を前に、林谷英司副会長（技術・保安部会長）の挨拶後、「1.高圧ガス事業者の3.11東日本大震災体験事例集（大陽日酸(株)鈴木富雄氏）、2.医療用ガスに関する製造管理および品質管理の基準について（日本エア・リキード(株)岡村和也氏）、3.平成24年度診療報酬改定における在宅医療について（テルモ(株)高嶋恒男氏）、4.JIMGA e-ラーニングについて（(株)リキッドガス 塚本元氏）」の4テーマによる講演が行われました。

総会前理事会では現任理事・監事により「平成24年度定時総会議案について」等を全会一致で決議しました。

部門総会・定時総会では豊田会長の挨拶後、部門総会で各部門の評議員候補が承認され、引き続き行われた定時総会で「1.平成23年度事業報告及び決算の承認、2.平成24年度事業計画及び予算の承認、3.評議員・理事・監事選任」が全会一致で決議されました。

また、今回は理事・監事・評議員の改選年となり、総会后理事会では新任理事・監事による豊田会長の再任と副会長の選任等が全会一致で決議されました。

懇親会は約270名が出席し、盛大に執り行われました。豊田会長の挨拶に続き、厚生労働省大谷医政局長、経済産業省川上審議官、高圧ガス保安協会作田会長から来賓の挨拶を頂き、松枝副会長の乾杯の挨拶で懇親が始まりました。和やかに懇親が進み、中締め鈴木副会長の挨拶で懇親会を終了し、すべての催しを終えました。尚、各位の挨拶は9月末発行予定の産業ガスレポートで詳しくお伝えする予定です。

(広報委員会事務局・和田 彰)

## 今夏の電力需給への対応について

### 電力対策タスクフォース新設

今夏の電力需給ひっ迫は、昨夏以上に厳しい状態だと考えられ、かつ広範囲に生じる懸念があります。JIMGAでは、今夏の節電状況を把握し、各地域への対応を検討するために「電力対策タスクフォース」を新設しました。5月11日に豊田会長主催で第一回会議を開催し、対応策や要請内容などについて確認しました。

### 官庁への要望書提出

業界にとって、医療用・保安用ガスの生産確保と供給体制は重要な課題です。液化酸素・液化窒素製造設備は、計画停電等を実施することで、実質的な操業が困難となるため、下記の要望を経済産業省化学課長及び資源エネルギー庁電力基盤整備課長へ提出しました。しかし、資源エネルギー庁より特例としない旨の回答があったため、厚生労働省を通じて一部でも特例となるように再度交渉を行いました。残念ながらこちらも不調となりました。

(環境・安全部会事務局・小峰 史朗)

#### 【要望事項】

#### ①空気分離製造設備を計画停電の対象外設備に指定

計画停電を回避するとともに、実施せざるを得ない場合は、当業界の酸素・窒素等を発生する空気分離製造設備を対象外とする。

#### ②事業所ごとの最大使用電力制限が行われる場合、空気分離製造設備を制限緩和措置に適用

電気事業法第27条に基づく使用制限が発動される場合、使用制限が緩和される制限緩和措置の類型に、当業界の酸素・窒素等を発生する空気分離製造設備を指定する。電力使用制限令が発動なしで事業所ごとの節電要請がなされる場合も、発動される場合と同様な緩和措置とする。

具体的には

- ・薬事法による医療用酸素製造工場については「生命・身体の安全確保に不可欠な需要設備」として制限緩和対象設備に指定
- ・空気分離製造設備一般を「電力使用の変動率がフラットな需要設備」として制限緩和対象設備に指定

#### ③共同使用制限スキームを選択可能とする

## e-ラーニング「水素の安全な取扱い」開設について

JIMGA技術・保安部会 教育・研修WGは、昨年のe-ラーニング「高圧ガスの安全基礎知識」に続いて、今年もe-ラーニング「水素の安全な取扱い」を作成し、水素編教材としてJIMGAのホームページに6月1日から掲載しています。

<http://www.jimga.or.jp/front/bin/cglist.phtml?Category=7228>

この水素e-ラーニングは、技術・保安部会の水素技術WGの協力を得て過去から蓄積していたデータや安全教材をアップデートし、教育・研修WGがイラストや動画を使用してわかりやすく構成したものです。水素の用途や消費先、生産・精製方法、貯蔵・供給方法などを紹介し、水素の持つ物理化学的な性質に焦点を当てた内容になっています。

燃料電池や家庭でのエネルギー生成に水素利用が進むなど、地球温暖化や環境問題の解決策として水素が社会から注目されている現在、e-ラーニング「水素の安全な取扱い」が事故の防止や安全の確保に役立て頂けることを願っています。

(技術・保安部会事務局・達 嘉樹)



## 企画部会の活動について

JIMGA企画部会は小池哲夫部会長（小池酸素工業株式会社代表取締役社長）以下15社から派遣された委員で構成されています。傘下の特殊ガス企画委員会、水素企画委員会、長期停滞容器回収推進WG、容器処理WGについては本紙第2、3、4号で紹介していますので、今回はグリーン物流WGの活動と部会のトピックスについて紹介します。

### グリーン物流WGの活動

総合ガスメーカー4社及び炭酸ガスメーカー3社の委員で構成され、環境・安全部会の地球温暖化対策WGと情報を共有しています。昨年度は、主に3つの課題に取り組みました。1つ目の液化ガスローリーから鉄道を利用したモーダルシフトの検討では、各種制約は受けるものの、輸送コストは同程度で、CO<sub>2</sub>を1/3削減出来るとの結論に至りました。2つ目は液化ガスローリーのCNGへの燃料転換検討を行いました。その結果、充てんスタンドの全国展開等課題はあるものの、高速走行距離が長い程、コストメリット及びCO<sub>2</sub>削減効果が大きいという結論になりました。3つ目は液化ガスローリーのCO<sub>2</sub>排出量の調査です。2010年度は、ローリー及びCE大型化、デジタルタコメーターの採用などにより、2006年度を100として燃料原単位(kl/千トン)で98.5、燃費(km/L)は100.6となり、省エネへの取組みの成果が見られました。

### 取引基本契約モデルの制定について

長期停滞容器回収推進WGでは、容器賃貸借契約の締結を推進しており、そのツールとして取引契約モデルの改訂作業を実施し、5月8日企画部会での承認を受け、自主基準として制定しました。延滞料から使用料へシフトしたモデルとしており、併せて改訂を実施したバルクでの取引契約書モデルと共に、会員専用ページで公開していますのでご利用ください。

<http://sangyo-mem.jimga.or.jp/front/bin/ptdetail.html?Part=model-01&Category=8904>



### 電子データ交換WGの新設について

JIMGA企画部会では、業界での取引に係る電子データを標準化するWGの設置を決定しました。従来は、メーカー、ディーラー間等で新規の取引を行う場合、紙の伝票から大量のデータを手入力で自社のシステムに取込むか、多額の費用で自社のシステムを改造し、他社のデータを取込む必要がありました。標準化を行うことにより、各社が正確かつ迅速にデータをシステムに取込むことが可能となり、システムの改造コスト等の削減が期待されます。

このWGでは、納入先コード、商品コード等の取引に必要なあらゆるデータの標準化を予定しており、進捗状況は改めて報告する予定です。  
(企画部会担当事務局・和田 彰)

## 北陸地域本部紹介 ～日本海国土軸の中核 北陸～

北陸地域本部は、石川・富山・福井・新潟の4県の会員で構成され、事務局は福井県越前市の宇野酸素株式会社内にあります。

### 組織の沿革

北陸酸素協会、北陸溶解アセチレン工業会、炭酸ガス工業会 北陸支部が統合し、平成13年に日本産業ガス協会（JIGA）北陸地域本部が発足しました。平成19年10月に日本医療ガス協会 北陸地域本部と合併して日本産業・医療ガス協会（JIMGA）北陸地域本部となり、現在に至っています。

### 構成概要と活動内容

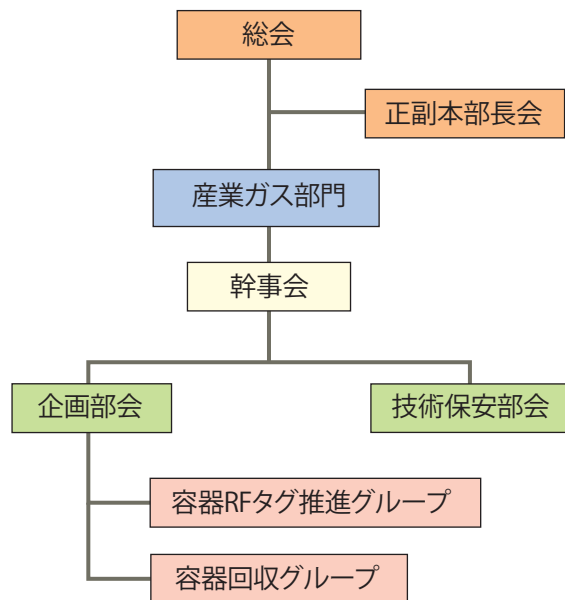
北陸地域本部は、産業ガス部門15社、医療ガス部門26社の会員で組織されています。産業ガス部門幹事会は6名の役員（本部長1名、副本部長1名、幹事3名、会計監事1名）で構成されています。本部長は、宇野酸素株式会社の小倉善興取締役会長です。

産業ガス部門は右図のように幹事会の下に企画部会と技術保安部会を設けています。企画部会は容器RFタグ推進グループと容器回収グループがあります。技術保安部会は安全・技術・保安等に関する調査・企画・会員への普及活動を行います。



5月16日 富山県民会館にて  
RFタグ説明会

北陸地域本部組織図



### 重要課題とその取組み

北陸地域本部では今年度、①保安の確保、②容器管理の徹底、③RFタグの普及の3つを重要課題として取組んでいます。毎年、各県持ち回りで高圧ガス消費者保安講習会を実施しており、今年は福井県で開催します。また、RFタグ普及推進のため説明会を開催し、普及活動を推進しています。

(北陸地域本部事務局・中村 孝)